別紙1

令和元年度　農山漁村振興交付金（山村活性化対策）
事業実施主体　評価結果

1．事業評価の実施

令和元年度に実施された農山漁村振興交付金（山村活性化対策）の事業について、「農山漁村振興交付金（山村活性化対策）実施要領」（平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知）の第9の1の（1）の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2．評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			H29	H30	R1		
島根県	津和野町	津和野町	●	●	■	A	4つの実施目標全てが目標を達成できていた。

（注1）「事業実施段階」の凡例：　○・・交付対象年度（計画）　●・・交付対象年度（実施済）　□・・目標年度（計画）　■・・目標年度（実施済）
（注2）「評価」の区分：　A・・優良　B・・良好　C・・低調

3．第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）実施要領の第9の1の（1）の規定に基づき、第三者である竹内　典之から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】
竹内　典之

【意見聴取の概要】
4つの成果指標全て100%を上回っていたことは評価できる。今後も山村振興のため継続して事業を行って頂きたい。

別紙2　（任意評価様式第1号）

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	津和野町	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
2. 取組振興山村名	津和野町	平成　29年度	令和　元年度	令和元年　6月　4日～令和2年　3月31日
3. 事業費（うち国費）	8，028，842円（8，028，842円）			
4. 第三者氏名	竹内　典之			

5. 事業評価

総合評価

○　取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 （①から④までを踏まえた総合的な評価）		（評価理由及び助言等のコメント） 4つの成果指標全て、100%を上回っていることは評価できる。 津和野町が推進する自伐型林業で生計を立てている人が増えていることは大変良いことだと思う。また、森林教育についてはこどもキャンプと冒険クラブの2つの事業がある程度確立されたと思うので今後も継続して頂きたい。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）重点指導対象	

①　取組状況

○　目標の達成に資するのための取組が行われたか。		（評価理由及び助言等のコメント） 自伐型林業推進のために先進地視察や講師の方をから指導を受けることで知識、技術が向上し効率的な作業が出来るようになったことが収入増につながったと考えられるので今後も継続して頂きたい。また、こども達向けの森林体験プログラムについても、こどもキャンプを短期と長期の2回開催したことは目標達成の面だけではなく、今後継続して行っていくためにいいデータが取れたと思うので大変良かった。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）重点指導対象	

②　事業実績

○　事業実施計画の目標は達成できているか。		（評価理由及び助言等のコメント） 昨年度達成できなかった目標を今年度は達成していることは評価できる。今後も継続して事業を行っていき山村振興に努めて頂きたい。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）重点指導対象	

③　実施体制

○　事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		（評価理由及び助言等のコメント） 美しい森林づくり委員会という津和野町独自の組織があり、その組織の会議において事業内容や取組方法などについて協議が行われたことにより、順調に事業が実施されていた点を評価する。
評　価 （該当に○）	（A）　（B）　（C）	

④その他

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

別紙2
（任意評価様式第2号）

学識経験者等第三者について

津和野町

1．第三者の氏名、住所 ① 氏名：　竹内　典之　（ たけうち　みちゆき ） ② 住所：　京都府京都市西京区嵐山谷ケ辻子町１１	3．第三者の経歴 ・京都大学名誉教授。農学博士 ・2003年、京都大学において海洋生物学者の田中克名誉教授とともに「森里海連環学」を提唱 ・NPO法人日本に健全な森をつくり直す委員会委員 ・2016年、環境省の「森里川海大好き！読本（仮称）」編集委員会委員
2．第三者に選定した理由 竹内典之氏は農学博士であり、人工林の密度管理や針葉樹林を針広混交林への誘導、森林作業道開設などの研究をされている学者である。 　当町面積の約90%は森林である。人工林率は約35%と全国的数値で比較するとその割合は低いものの、戦後の拡大造林期に造林した森林が成長し、間伐材として利用可能な状況になりつつあり、かつてない森林資源量を有する状況となっている。 　しかし、急峻な地形と人工林が点在することなどから森林資源の活用はあまり進んでいない現状がある。 　そのため、森林資源の活用や林業についての豊富な知識を有するとともに、全国各地での先進事例にも精通されている竹内典之氏を選考し、地元住民だけでなく、UIターン者などが林業の担い手として活動するための指導助言がいただけると判断した。	

別紙2

（任意評価様式第3号）

令和元年度	事業開始 ３年目	島根県鹿足郡津和野町	津和野町

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

〇事業の実施状況

◆林業研修の拠点づくり

自伐型林業のための各種研修会の開催

国内で先駆的な活動をされている講師を招いて、適正な森林管理方法や壊れない作業道づくり、自伐型林業間伐・搬出についての研修を開催し、自伐型林業に必要な技術習得を目指しました。また、先進地の視察研修を行い林内作業車道のメリットを知ることが出来ました。

・森林アドバイザーの研修



・森林作業道開設研修



・自伐型林業間伐・搬出研修



・自伐型林業間伐・搬出研修



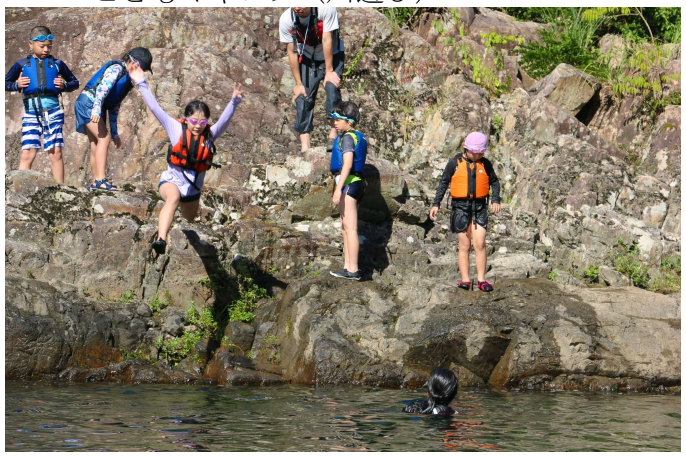
・先進地視察先　菊池林業（林内作業車見学）



◆多彩な森林教育のプログラム開発

３～６年の小学生を対象にしたこどもキャンプを短期コースと長期コースの2回開催しました。また、小学生を対象として、自然の中で子供たちが思い思いに遊ぶ場を作る冒険クラブを3回開催しました。こどもキャンプでは町内のフィールドを活用し、間伐体験や山遊び、川遊びなどを行い、冒険クラブではひみつ基地づくりや木登りなど森林とのふれあいや森林での学びが楽しいと感じるような森林教育プログラムの確立へ向けた取り組みを行いました。

・こどもキャンプ（川遊び）



・こどもキャンプ（ブランコ）



・こどもキャンプ（流し素麺）



・冒険クラブ（ツリークライミング）



・冒険クラブ（ひみつ基地づくり）



◆森林とふれあいに関する拠点づくり

かつてのように人と森林との距離を近い状態にするために、全国の先駆者を招いて、キノコ粗放栽培による里山林の活用についての講演会と、実際に山に入りキノコの粗放栽培を行う実演会を開催しました。チェンソーと菌の準備さえすれば通常の栽培よりも簡易的に栽培が行えるので、森林教育など多方面にわたり活用が出来そうでした。

講師：伊佐治彰祥氏（岐阜県・岐阜県立森林文化アカデミー）

・伊佐治　彰祥氏講演会



・伊佐治　彰祥氏講演会（実演会）



◆森林を活用した交流イベント企画

薪やキノコなど山にある財産の価値について知ってもらうこと、触れあってもらうことを目的として薪フェスイベントを開催しました。イベントでは薪割体験、薪ストーブ・スウェーデントーチの実演、つるかご作り、キノコ汁の配布などを行いました。

・薪フェスイベント（薪割）



・薪フェスイベント（つるかご作り）



◆広葉樹活用

津和野町の森林で6割を占める広葉樹の活用法を探るために岐阜と大阪の市場等の視察へ行きました。
視察先が求めている広葉樹は津和野町でも多数存在していることがわかり、今後は原木として出荷するのか、製材して出荷するのかなどどのように活用していくかを検討していく必要があります。

・先進地視察　㈱カネモク



・先進地視察　岐阜県銘木協同組合



・先進地視察　講演(合)戸田材木店



〇今後の事業構想

自伐型林業を仕事として確立し、持続的に展開するために、引き続き、適正な森林管理方法や有利な森林経営方法、環境に配慮した幅員2.5mで山側の切取法面高1.5m程度の壊れない作業道づくり、伐採方法や集材造材方法など先駆的な技術の習得を目指します。

また、こどもキャンプや冒険クラブを引き続き開催し、将来を担う子供たちが森林とふれあい、学習していくための森林教育プログラムを確立していきたいと考えています。

そして、森林での活動の取り組みの魅力を町内外へ発信すること、森林の価値について知って貰うためのイベント・講演会を開催することでより多くの人が森林とふれあって貰えるよう活動していきます。

最後に、本町の森林において6割を占める広葉樹を活用するため、広葉樹の見分け方の学習や活用法、販売法の検討を行うことで産業化を行っていきたいと考えています。